

研究協力者各個研究報告

思春期児童の精神身体発達に関する医学的問題点

坂上正道（北里大学医学部）

思春期の子供達は医師の立場からいうと小児科から内科への移行期であり、医療上の盲点となりやすい時期である。内科の医師は成人の疾患の多くは青年期以降に初発すると考えるが、小児科医は逆に小児期に発症もしくは形成された疾病状態が潜伏し、おとなになって顕症化するものが多いと考える。思春期は疾病からみると中間期といえる。そのよい例が学校検尿による無症候性の蛋白尿、血尿の患児の発掘である。従来の常識では考えられないほど多くの有異常尿所見患児が発見され、腎生検を含む精密検査により種々腎疾患の早期診断、早期治療が小児科領域で行われるようになった。これら児童の臨床経過を追うことにより各種疾患の発症機序も明らかになりつつある。

同様の事柄が所謂成人病についてもいえるように思う。高コレステロール血症は5～6歳頃から散見されるようになり、高血圧は男性においては既に13歳前後から認められるようになる。インスタント食品のはんらんによる最近の子供達の食生活の変化（食塩、脂肪の過摂取）と無縁ではなからう。

このように思春期は疾病の経過において重要であるとともに、身体的には2次性徴の出現時期、精神的には親からの第2次の独立（第1次は2～3歳の頃）時期にあり、心身共に大きく変動する時期にある。この時期には潜在していた結核症が急性増悪（シュープ）することもあるように、これらの変動が疾病とからむことがあり注意を要する。また2次性徴の発達に沿って性教育を上手に実施しなければ、最近の性に関する事物のはんらんの中で子供達がそれらの情報を正しく取捨選択できないまま放置する結果になる。精神的な第2次独立期に性に関する悩みがからみ合うことにより、より複雑な精神反応を示すようになる。喫煙、飲酒、シンナー遊び等もその枝葉に現われた一つの症状といえることができる。

このように考えてくると、思春期にある個人の

身体的、精神的、社会的発達の状態をチェックするポイントは次の5項目に要約されると思う。

- I) 身体発育の程度
- II) 精神発達の程度
- III) 潜伏する疾病の有無
- IV) 家庭状況と家庭構成員との人間関係
- V) 学校の状況と友人との人間関係

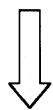
I) については身長、体重のみならず身体各所、諸臓器の発達の程度まで調べる必要がある。

II) については知能の発達のみならず社会適応能力等まで調べる必要がある。

III) については既に注意すべき具体例を述べたが更に精神的にもこの時期は精神分裂病の初発してくる時期であることを銘記すべきであろう。急に身だしなみが悪くなり爪も切らなくなった。学校にもいかず部屋にこもって寝てばかりいる。登校拒否症ではないかと親に付添われて受診し調べてみると分裂病の初期症状であったなどということを経験する。

IV) V) は社会環境の程度とそれに対する社会適応能力ならびに人間関係のとり方のよしあしを調べる。

以上各々できる限り客観的な尺度で表現し得る因子を選択し、ある地域における各学校単位の、更にはある特殊な状況における個人の例において思春期の子供達の現状を把握しそれに対処する方法論を確立しそれを実行し報告する必要がある。以上次年度に行う研究の骨子をお示した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



思春期の子供達は医師の立場からいうと小児科から内科への移行期であり、医療上の盲点となりやすい時期である。内科の医師は成人の疾患の多くは青年期以降に初発すると考えるが、小児科医は逆に小児期に発症もしくは形成された疾病状態が潜伏し、おとなになって顕症化するものが多いと考える。思春期は疾病からみると中間期といえる。そのよい例が学校検尿による無症候性の蛋白尿、血尿の患児の発掘である。従来の常識では考えられないほど多くの有異常尿所見患児が発見され、腎生検を含む精密検査により種々腎疾患の早期診断、早期治療が小児科領域で行われるようになった。これら児童の臨床経過を追うことにより各種疾患の発症機序も明らかになりつつある。

同様の事柄が所謂成人病についてもいえるように思う。高コレステロール血症は5~6歳頃から散見されるようになり、高血圧は男性においては既に13歳前後から認められるようになる。インスタント食品のはんらんによる最近の子供達の食生活の変化(食塩、脂肪の過摂取)と無縁ではなからう。